

令和３年度小松市立丸内中学校 学校評価２ （中間）

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・８月提出）	取組の成果と課題（年度末・３月提出）
生徒指導	<恕の心の育成>	・挨拶をはじめとする礼儀の基礎基本は身につくつある。 ・互いに認め合える場面も見られるが、まだ人の目が気になり安心して発言できる雰囲気が作れていないところもあるので、クラスへの声かけ、良い所をその場で認めること、ソーシャルスキルトレーニング等、教師の働きかけを継続して行っていく。 ・交通ルール、マナーについて、丁寧に迅速に対応し、全職員、生徒に周知し、「安心・安全」について繰り返し生徒に伝えることはできたが、まだまだ浸透していないと感じるところもあるので、繰り返し継続した指導を行う。 ・ネットトラブルに関しては、学校でできることに限りがあり、難しさを感じるが、家庭の協力を得ながら、トラブル防止について呼びかけていく。	
	①豊かな人間性，よりよい人間関係を築く能力を育成する。 ②互いを認め合える集団を育成する。安心して発言できる親和的学級づくりを目指す。 ③安全安心な登下校のための交通ルール，マナーの定着。特に，自転車通学における一時停止徹底の指導に重点を置く。		
道徳教育	<自主・自律の精神，思いやりと感謝の心を育む>	・全校で人権作文に取り組むことで，人権意識を高める活動を行えた。 ・道徳ノートではきちんと考えが書かれているが，意見の交流を苦手とする生徒も見られ，決まったメンバーしか挙手しない。交流の場を設けると共に，話しやすい雰囲気づくりや発問の工夫，全体で授業を作る工夫が必要である。また，「丸中トーク」を効果的に活用していく。 ・振り返りの時間を確保することを通して，子供たちの記述から，考えの広がりや深まりを感じることができた。「丸中トーク」を意識することで，次の発言を頑張ろうと思える生徒も見られた。 ・学年ごとに，全クラスをローテーションする授業を通して，個々の新たな一面を発見し，生徒と教師の関係づくりの一助となっている。今後も継続して取り組んでいく。	
	・昨年度の取り組みを土台とし，実践力のさらなる向上を目指す。 ・自己を振り返り，考えることを通して，自らを律する精神を高める。 →毎時間の授業・学期末に行う振り返りの充実 ・「丸中トーク」を通して，多面的・多角的な捉え方や考え方を体感しながら，自分とは異なる捉え方や考え方を受け止める心を育てる。 →「丸中トーク」の効果的な活用		
GIGA	学ぶ心（確かな学力）の育成に向けて、GIGAスクール構想を進め、生徒・教師共にICTスキルの向上に努める	・ICTを積極的に使用している職員もいれば，苦手な職員もあり，一人一人の意識に差がみられる。効果的な使い方がわからず，模索中の職員もみられ，学校研究とも連携しながら，授業改善に努めて行く必要がある。 ・ICTの苦手な教員にも折をみて，使い方を教えている。実践の交流や使い方を共通理解する場をもつことで，さらにICTを活用した授業を工夫していく。また，研修会で学んだことを共有し，実践にいかしていく。 ・総合的な学習の時間において，頻繁に活用しているので生徒のスキルは向上している。	
	・若手の実践を校内全体に広げる機会を持つ（８月・１月） ・総合的な探究の時間を基軸に共通実践を図り、各教科に広げる。 （自分の考えをまとめる場面について、ノート機能やプレゼン機能等を用いる） ・ICTが苦手な教員に対し、個別に端末の操作方法を教える機会を適宜設ける。		
人材育成	若手教員の指導力向上	・日常的な教育活動を通して，先輩教員から若手教員へのアドバイスを適宜行ったり，悩み相談に応じたりしている。 ・教科部会や研修会を通して，授業づくりの共通理解を図っている。 ・授業交流をする中で，効果的な指導法について学ぶことができるが，互いに授業を見合う時間がなかなか取れない現状も見られる。授業交流の時間を設定することで，意識を高めていく。	
	学校の日常的な教育活動を基盤として，若手教員の指導力向上を図っていく。 ・校内研修の質的向上及び効果的な実施 ・学校全体でＯＪＴに取り組める雰囲気づくり ・日常的な研修体制の確立 ・校務分掌における若手教員の配置の工夫		

学校関係者評価	
---------	--